

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福島県 】

学校名【 福島市立大鳥中学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ V （複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	学 校 名 福島市立大鳥中学校 対象学年 全学年 クラス 全クラス 参加人数 156名（生徒141名 教職員15名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック競技開催地の県民・市民として、多様な文化を受け入れ、人々が互いの人権を尊重し合い、共に力を合わせて生活する共生社会の実現を目指す。
5 取組内容	講 演 「甲子園への道」 講 師 聖光学院高等学校 野球部監督 斎藤 智也 氏 

6 主な成果	<p>生徒たちは、将来の生き方に迫る講演を聞いて、「人とは比較せず、今までの自分と比較し、自分の成長を自覚することが成功につながることや、人との出会いを大切にし、『人に生かされて、人を生かす』という人としての生きがいを感じることに」がとても重要であると学ぶことができた。</p> <p>また、どんな状況においても、自分を信じ、夢をあきらめずに、夢に向かって努力を続けることの大切さを改めて考えることができた。</p>
7 実践において工夫した点(事業の特色)	<p>講演を開催するにあたって、講師の選定はオリンピックまたはパラリンピアンを予定していたが、コロナ禍での事業実施となったため、県内からの選定とした。</p> <p>選定にあたっては、コロナ禍で様々な活動が中止や縮小となり、今後も先行きが見えない厳しい状況の中、甲子園という夢をあきらめずに、夢に向かって努力を続ける地元の聖光学院高等学校野球部の監督である斎藤智也氏(本校卒業生)に講演を依頼した。</p>
8 主な課題等	<p>東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催年度は、多くの地域で関連事業が開催されることが予想されるため、講師の確保は早めに進めなければならない。</p> <p>また、限られた予算であるため、人選には苦慮することもある。個人での契約または行政からの依頼であれば、予算の範囲内で講師を確保することも可能である。</p>
9 来年度以降の実施予定	<p>本校はこれまで、スポーツの意義はもちろん、おもてなしや障がい者スポーツへの理解を含めた取組を進めてきた。</p> <p>オリンピック・パラリンピック開催予定であった今年度は、「支える」という観点でオリンピック・パラリンピック教育推進事業を進めていく予定であったが、コロナ禍で大きく事業を変更した。</p> <p>次年度は、福島市でソフトボール競技の開催が予定されているため、福島市や地元ボランティアなど、様々な場面で多くの人たちがオリンピックに関わっていることや、オリンピック開催による経済効果や国際理解など、多面的・多角的にオリンピック・パラリンピックを理解させたい。</p> <p>さらに、自己の生活を振り返りながら、オリンピック・パラリンピックによるレガシーとは何か、何を残すことができるのかを、生徒たちに求めていきたい。</p>